

平成 26 年 度

小学校教員資格認定試験
教職に関する科目 (Ⅱ)

図 画 工 作

注 意 事 項

受験者は、下記注意事項によること。それ以外の注意事項は試験実施大学の指示によること。

1. 試験監督者の「始め。」の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
2. 実施大学名、氏名、受験番号、受験科目を平成 26 年度「幼稚園・小学校教員資格認定試験 解答カード」(以下、「解答カード」という。)の指定された欄に必ず記入してください。
3. 受験番号、受験科目をマークしてください。
ただし、受験科目のマークについては、小学校の欄にマークしてください。
4. 解答カードの中で特に受験番号、受験科目の欄の記入及びマークを間違えると失格になるので注意してください。
5. 解答は、すべて解答カードの解答欄にマークで記入してください。問題冊子に答えを書いても無効です。
6. マークは必ず鉛筆を使用して、枠内にきちんと記入してください。
訂正する時は、消しゴムで完全に消してください。また、解答カードを曲げたり折ったりしてはいけません。
解答カードが汚れた場合や折れてしまった場合は、試験監督者に解答カードの交換を申し出てください。
7. この試験の解答時間は、「始め。」の合図があってから 50 分です。
8. 試験が終わるまで退室できません。 [マーク例]
9. 試験監督者の「やめ。」の合図があったら、直ちにやめてください。 (よい例) ●
10. 下書きには問題冊子の余白を使用してください。
11. 試験終了後、問題冊子を持ち帰ってもかまいません。 (悪い例) ⊖ ⊗ ⊕ ⊙

以下の設問において『小学校学習指導要領』とは、『『小学校学習指導要領』(平成20年文部科学省告示第27号)第2章 第7節 図画工作』を指し、『小学校学習指導要領解説 図画工作編』とは、『文部科学省『小学校学習指導要領解説 図画工作編』(平成20年8月)』を指すものとする。

問1 次の文章は、『小学校学習指導要領』における〔第1学年及び第2学年〕の「2 内容 A 表現 (2)」の文章を示したものである。空欄 ① から ③ に入る適切な語を下の〔語群〕から選択し、その組合せとして正しいものを、下のアからエの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

(2) 感じたことや ① ことを絵や立体、工作に表す活動を通して、次の事項を指導する。

ア 感じたことや ① ことから、表したいことを見つけて表すこと。

イ ② 色を選んだり、いろいろな形をつくって楽しんだりしながら表すこと。

ウ ③ 材料や扱いやすい用具を手を働かせて使うとともに、表し方を考えて表すこと。

- 〔語群〕 A 適切な B 楽しい C 面白い
 D 想像した E 思い付いた F 考えた
 G 身近な H 好きな I きれいな

- ア ① D ② H ③ G
 イ ① F ② I ③ C
 ウ ① D ② A ③ G
 エ ① E ② I ③ A

問 2 次の文章は、『小学校学習指導要領』における〔第 5 学年及び第 6 学年〕の「1 目標」に示されている文章である。空欄の ① から ③ に入る適切な語を下の〔語群〕から選択し、その組合せとして正しいものを、下のアからエの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

- (1) ① 表現したり鑑賞したりする態度を育てるとともに、つくりだす喜びを味わうようにする。
- (2) 材料などの特徴をとらえ、想像力を働かせて発想し、主題の表し方を構想するとともに、様々な表し方を工夫し、造形的な能力を高めるようにする。
- (3) ② 作品などから、③ を感じ取るとともに、それらを大切にするようにする。

〔語群〕 A 創造的に B 独創的に C 自由に
 D 身近な E 親しみのある F 身の回りの
 G よさや面白さ H よさや美しさ I よさや楽しさ

- ア ① A ② E ③ H
 イ ① B ② F ③ G
 ウ ① C ② F ③ H
 エ ① A ② D ③ I

問 3 次の文章は、『小学校学習指導要領』における第1学年から第6学年までの「2 内容 A 表現 (1)」に示されている文章である。それぞれがどの学年の内容を示しているのか、正しい学年の組合せのものを、下のアからエの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

- | |
|---|
| ① 身近な材料や場所などを基に発想してつくること。 |
| ② 新しい形をつくるとともに、その形から発想したりみんなで話し合ったりしながらつくること。 |
| ③ 前学年までの材料や用具などについての経験や技能を総合的に生かしてつくること。 |
| ④ 身近な自然物や人工の材料の形や色などを基に思い付いてつくること。 |

- | | | |
|---|----------------|----------------|
| ア | ① [第1学年及び第2学年] | ② [第3学年及び第4学年] |
| | ③ [第3学年及び第4学年] | ④ [第5学年及び第6学年] |
| イ | ① [第3学年及び第4学年] | ② [第5学年及び第6学年] |
| | ③ [第1学年及び第2学年] | ④ [第1学年及び第2学年] |
| ウ | ① [第1学年及び第2学年] | ② [第3学年及び第4学年] |
| | ③ [第5学年及び第6学年] | ④ [第1学年及び第2学年] |
| エ | ① [第3学年及び第4学年] | ② [第3学年及び第4学年] |
| | ③ [第5学年及び第6学年] | ④ [第1学年及び第2学年] |

問 4 次の文章は『小学校学習指導要領解説 図画工作編』の「第 3 章 各学年の目標及び内容 第 3 節 第 5 学年及び第 6 学年の目標と内容 2 内容〔共通事項〕」に示された文章の一部である。空欄の ① から ③ に入る適切な語を下の〔語群〕から選択し、その組合せとして正しいものを、下のアからエの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

「自分のイメージをもつ」とは、高学年の段階では、外観から立体の構造や ① を把握したり、心に描いた情景や像などから形や色を考えたりするなど、中学年以上に具体的な ② に即してイメージをもつことを示している。(中略)ただし、この学年においてもイメージを ③ にもつことは重要であり、自分の気持ちや経験と密接に関連していたり、曖昧で一体的なものであったりする。

〔語群〕 A 構成 B 空間 C 内容
 D 特徴 E 印象 F 関係
 G 直観的 H 創造的 I 具体的

ア ① C ② E ③ I
 イ ① B ② D ③ G
 ウ ① A ② F ③ H
 エ ① B ② C ③ I

問 5 次の文章は、『小学校学習指導要領解説 図画工作編』の「第2章 図画工作科の目標及び内容 第1節 図画工作科の目標 2 学年の目標」に示された文章の一部である。空欄の ① から ③ に入る適切な語を下の〔語群〕から選択し、その組合せとして正しいものを、下のアからエの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

各学年の目標は、それぞれ次のような点を重視して示している。

(中略)

(2)は、発想や構想の能力、創造的な技能に関する目標

- ・豊かな発想をし、体全体の感覚や ① などを働かせる。(低学年)
- ・豊かな発想をし、 ② や体全体を十分に働かせ、表し方を工夫する。(中学年)
- ・ ③ を働かせて発想や構想をし、様々な表し方を工夫する。(高学年)

〔語群〕 A 手 B 構成力 C 自分の感覚
 D 関心や意欲 E 創造性 F 想像力
 G 言語能力 H 技能 I 目

ア ① I ② A ③ C
 イ ① A ② H ③ E
 ウ ① H ② A ③ F
 エ ① A ② E ③ C

問 6 次の文章は、『小学校学習指導要領』における「第3 指導計画の作成と内容の取扱い」の文章である。空欄 ① から ④ に入る適切な語を下の〔語群〕から選択し、その組合せとして正しいものを、下のアからエの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。

(1) 第2の各学年の内容の〔共通事項〕は表現及び鑑賞に関する ① を ② する上で共通に ③ となるものであり、表現及び鑑賞の各活動において十分な ④ が行われるよう工夫すること。

〔語群〕 A 学 習 B 情 操 C 指 導
 D 必 要 E 目 標 F 能 力
 G 評 価 H 陶 冶 I 育 成

ア ① A ② G ③ D ④ I
 イ ① F ② G ③ E ④ C
 ウ ① F ② I ③ D ④ C
 エ ① B ② H ③ E ④ A

問 7 次の文章は、『小学校学習指導要領解説 図画工作編』の「第4章 指導計画の作成と内容の取扱い 2 内容の取扱いと指導上の配慮事項」に示された文章の一部である。空欄 ① から ④ に入る適切な語を下の〔語群〕から選択し、その組合せとして正しいものを、下のアからエの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

(4) 事故防止に関する事項

この事項は、造形活動で使用する材料や用具、 ① については、事故防止に留意する必要があることを示している。

材料や用具については、安全な扱い方について指導することが重要である。その際、教師の一方的な ② で終わるのではなく、実際に取り扱うなどして、児童が実感的に理解することが必要である。鋭い刃のある用具や電動式の用具などでは、特に事故がないように配慮する必要がある。接着剤には、 ③ を高温で溶かして使うものや接着力の強いものがあるので、皮膚などについた場合の危険性などを事前に児童が理解しておく必要がある。固定して使用することになっている用具は、台座を ④ するなどして動かないようにする必要がある。

① については、事前の点検が必要である。例えば、プールサイドでの活動や高い場所での活動が予想される場合には、水の量や濁り、足場の安定や手すりの高さなどを調べ、安全や衛生面を確認する必要がある。

- 〔語群〕
- | | | |
|--------|--------------|--------|
| A 金属 | B 遊び場 | C 安全確認 |
| D 除去 | E デモンストレーション | F 説明 |
| G 指示 | H 用意 | I 有機物 |
| J 展示空間 | K 樹脂 | L 活動場所 |

- | | | | | |
|---|-----|-----|-----|-----|
| ア | ① B | ② E | ③ I | ④ D |
| イ | ① L | ② F | ③ K | ④ H |
| ウ | ① B | ② G | ③ I | ④ H |
| エ | ① J | ② C | ③ A | ④ D |

問 8 次の文章は『小学校学習指導要領解説 図画工作編』の「第4章 指導計画の作成と内容の取扱い

2 内容の取扱いと指導上の配慮事項」に示された文章の一部である。空欄 ① から

④ に入る適切な語を下の〔語群〕から選択し、その組合せとして正しいものを、下のアからエの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

(5) ① の美術館などの利用や連携に関する事項

この事項は、1の指導計画の作成の(3)の「指導の効果を高めるため必要がある場合には、児童や学校の実態に応じて、② して行うようにすること」に関連している。児童の鑑賞の充実の観点から、児童や学校の実態に応じて、① の美術館などを利用したり、③ を図ったりすることについて示している。

「① の美術館など」とは、美術館や博物館など、親しみのある美術作品や暮らしの中の作品などを展示している① の施設や場所のことを示している。利用においては、児童の鑑賞の能力を育てる目的で行うようにするとともに、児童一人一人が④ な鑑賞ができるように配慮する必要がある。ただ、美術館などは、作品の保存や収集、展示、研究、教育普及など、様々な目的をもっている。それぞれの施設に応じて特性が異なるので、これらに配慮した上で、施設が提供する教材や教育プログラムを活用する、学芸員などの専門的な経験や知識を生かして授業をするなど、多様な取組が考えられる。

〔語群〕 A 独立 B 連携 C 知的
D 近隣 E 分割 F 感性的
G 能動的 H 地域 I 簡略化
J 交流 K 批評的 L 融合

ア ① D ② B ③ L ④ C
イ ① H ② A ③ J ④ K
ウ ① D ② L ③ J ④ G
エ ① H ② A ③ B ④ G

問 9 次の文章は『小学校学習指導要領解説 図画工作編』の「第3章 各学年の目標及び内容 第3節 第5学年及び第6学年の目標と内容 2内容 B 鑑賞」に示された文章の一部である。空欄 ① から ④ に入る適切な語を下の〔語群〕から選択し、その組合せとして正しいものを、下のアからエの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

「感じたことや思ったことを話したり」とは、自分の作品や美術作品などの ① と自分の ② を関連付けながら話したり、まとめたりすることなどを示している。「友人と話し合ったりする」とは、同じ造形活動や鑑賞活動をしている友人と自由な会話をしたり、簡単な話し合いをしたりすることを示している。児童は、学習の課題、参考資料、他の人々の意見など、様々な材料を活用して話し合いを行うことになる。「表し方の変化、表現の意図や特徴などをとらえる」とは、表現する人の思いや心の揺れによる表し方の変化、③ の違いによる表現の ④ などについて、鑑賞活動を通して考えることを示している。

- 〔語群〕 A 形や色 B 内容や形式 C 時代背景
 D 知識 E 思い F イメージ
 G 表現技法 H 時代や地域 I 社会的認識
 J 独自性 K 意図や特徴 L バリエーション

- ア ① B ② F ③ I ④ K
 イ ① C ② D ③ G ④ L
 ウ ① B ② E ③ G ④ J
 エ ① A ② F ③ H ④ K

問10 次の文章は、『小学校学習指導要領解説 図画工作編』の「第4章 指導計画の作成と内容の取扱い 1 指導計画作成上の配慮事項 (5) 生活科など他教科等や幼稚園教育との関連を図ることに関する事項」に示された文章の一部である。空欄 ① から ④ のいずれにも当てはまらないものを、下のアからエの中から選んで、記号で答えなさい。

幼児期は ① 活動が中心の時期であり、周りの人や物、自然などの環境に体ごとかわり全身で感じるなど、活動と場、体験と ② が密接に結び付いている。小学校低学年の児童は同じような発達の特徴をもっており、 ③ を通して感じたことや考えたことなどを、常に自分なりに組み換えながら学んでいる。

このような発達の特徴を生かし、生活科など他教科等との関連を積極的に図ったり、幼稚園や保育所、認定こども園での表現に関する内容などを参考にして低学年の ④ を検討したりする工夫が必要である。

- ア 感情
- イ 造形遊び
- ウ 題材
- エ 体験

問11 パブロ・ピカソ(1881～1973年)について述べたものとして適切でないものを、下のアからエの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

- ア パブロ・ピカソの表現は制作時期と作品の特徴によって、「青の時代」や「バラ色の時代」と呼ばれている。
- イ パブロ・ピカソはマルセル・デュシャン(1887～1968年)とともにキュビズムの創始者である。
- ウ パブロ・ピカソが制作した《アヴィニヨンの娘たち》は20世紀絵画の出発点とされている。
- エ パブロ・ピカソが制作した《ゲルニカ》は爆撃の悲劇を作品に反映させた最大の傑作の一つと言える。

問12 水彩絵の具について述べたものとして適切でないものを、下のアからエの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

- ア 水彩絵の具には透明水彩絵の具や不透明水彩絵の具といった種類がある。
- イ 水彩絵の具は乾燥していない時の色調と乾燥した時の色調に違いが生じる事がある。
- ウ 水彩絵の具の技法には「ウェット オン ウェット」や「ウェット オン ドライ」等がある。
- エ 水彩絵の具の固着材(展色剤)の主成分はダンマルガムが一般的である。

問13 次の文章に当てはまる技法を下のアからエの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

彫刻の一つの技法であり、材料を彫ったり削ったりして形をつくり出す技法である。その道具として、制作中によく使われる丸のみや平のみがある。この技法で日本を代表する作家として、《老猿》という作品を制作した高村光雲を挙げることができる。

- ア 木 彫
- イ 石 彫
- ウ 塑 造
- エ ^{せっこう}石膏直づけ

問14 次のアからエの中から、彫刻家であるヘンリー・ムーアの説明として適切でないものを一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 1898年、ヨークシャー州カッスルフォードに生まれる。
- イ ロンドンの地下鉄駅構内に爆撃から避難している市民をモチーフにし、デッサンをした。
- ウ 《考える人》、《カレーの市民》、《バルザック》等の作品が代表作である。
- エ 小石、貝殻、骨などの形態やリズムを参考にして、彫刻を制作した。

問15 書体に関して述べた次の文のうち、①から③のいずれにも当てはまらないものを、下のアからエの中から選んで、記号で答えなさい。

日本の書体で使用頻度の高いものは明朝体とゴシック体である。

あなたが今読んでいるこの質問文の本文は「①」という書体で、楷書という書道の書法を様式化して作られている。古くは経文を印刷するための版木にこの書体が使われており、現在でも小説などの本文にこの書体が多用される。一方、この問題用紙の問題番号の書体は「②」で、全体に同じ太さの線で作られており、この書体の仲間は視認性が良いため駅や空港の誘導文字に多用される。問題番号に使われている書体のバリエーションとして、それぞれの線要素の端や角を丸くして柔らかさを強調した「③」もある。

- ア 丸ゴシック体
- イ ゴシック体
- ウ 明朝体
- エ ポップ体

問16 空間や立体を表現する図法に関して述べた次の文のうち、①から③のいずれにも当てはまらないものを、下のアからエの中から選んで、記号で答えなさい。

立体や空間をイメージするとき、平面図や展開図では立体感を直感的に伝えることが難しい。そのとき、「視点から遠ざかるにつれ物が小さくなって見える」という、現実に自分たちが体験している状況に近いかたちで、立体や空間のイメージを実際に立体的に描き起こしてみせる方法が「①」である。

この方法を用いた表現には水平線とその上にある消失点が必要となる。この図法のうち消失点の一つが必要な「②」は、平行透視図法とも呼ばれ、室内空間などの描写によく使われる。これに対して消失点を二つ用いる「③」は、有角透視図法とも呼ばれ建物の外観などの描写によく用いられる。

- ア 一点透視図法
- イ 軸測投影法
- ウ 二点透視図法
- エ 透視図法

問17 教材として扱う場合等の一般的な「楽焼き」について、施釉^{まゆ}後の焼成温度として適切な温度帯を、下のアからエの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

- ア 500℃から600℃程度
- イ 800℃から900℃程度
- ウ 1100℃から1200℃程度
- エ 1300℃から1400℃程度

問18 陶芸、木工芸、金属工芸の装飾技法で共通する技法名称を、下のアからエの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

- ア 毛彫^{けい ぼり}
- イ 染付^{ぞめ つけ}
- ウ 平文^{ひょうもん}
- エ 象嵌^{ぞうがん}

問19 次の各文のうち、東洲斎写楽に関する記述として正しいものを、下のアからエの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

- ア 東洲斎写楽の代表作は《見返り美人図》である。
- イ 東洲斎写楽は阿波徳島藩お抱えの絵師であったという説が有力である。
- ウ 東洲斎写楽の肉筆による代表作は《深川の雪》である。
- エ 東洲斎写楽は葛屋重三郎を版元として作品を発表した。

問20 次の文の空欄(①)から(④)に入る適切な語を[語群]から選択し、その組合せとして正しいものを、下のアからエの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

モネはブーダンの影響で、(①)での絵画制作を始める。パリではルノワールやシスレーらと友人になる。クールベやマネの影響を受け、「(②)の光」をいかに描写するか、ということに熱心になる。1870年代、(③)戦争を避けて、イギリスに渡航。コンスタブルやターナーを研究。1874年、《印象—(④)》を第一回印象派展に出品する。反サロン派たちの芸術展であった。ここで「印象派」という名前が生まれた。

[語群] A パラ B 日の出 C 美術学校
D 人工 E 米西 F 出航
G 戸外 H 自然 I 室内
J 日没 K 電灯 L 普仏

ア ① G ② H ③ L ④ B
イ ① I ② K ③ L ④ F
ウ ① G ② K ③ A ④ J
エ ① C ② D ③ E ④ B